

27年度 第2回 都市機能・生活関連機能サービス検討分科会 議事録

(1) 日 時：平成27年2月2日(火) 13:30~15:45

(2) 場 所：えーるピア久留米 205 学習室

(3) 出席者：都市機能・生活関連機能検討分科会 10名(欠席委員 3名)

事務局 4名

各市町企画担当職員、各ワーキンググループ職員

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 次第及び議事： [○…委員質問・意見 ●…事務局等回答]

1. 開会

2. 議事

(1) 都市圏ビジョン(案)：第4章将来像の実現に向けた具体的な取組について

①具体的な取組について

〔地域振興、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進、人材の育成及び確保について説明〕

- 公共交通のところで、これから調査をされると思うが、仮に運行となった場合、どこかが運行主体になると思うが、この懇談会から各自治体へ提言するという形になるのか。
- 調査結果によって、久留米市域が隣接する市町へ、或いは各市町から久留米市域への公共交通のニーズがあれば、久留米市で運行している「よりみちバス」を、久留米市境を越えて隣接する市町まで運行するなどを検討したい。
- 久留米市に関連しない市町間にニーズがあった場合は、どうするのか。
- この連携中枢都市圏の取組みは、久留米市と各市町の連携によるものなので、久留米市が絡まない場合は難しい場合もあるが、出来ることがあれば取り組んでいきたい。
- 久留米市としては、これまでのノウハウや情報の共有の場づくりなどで絡むことで連携中枢都市圏の取組みへ位置づけできるかと思う。
- 福岡都市圏を対象とした移住促進を図る場合に、圏域の「暮らし易さ」とはどういうものをアピールするのか。
- これまでは久留米市のアピールとしては、20代~40代の子育て世代に対しては、住宅環境が同じ価格であれば広いマンションや戸建てを買うことができる、或いは小児医療や救急医療体制が充実している。待機児童の少なさや給食や空調設備が小中学校に整っているなど子育てしやすい環境を説明してきている。退職後などのUターンなどを考えられている方については、救急医療体制の充実などのメリットとあわせて健康保険料が高いなどのデメリットも含め説明している。対象者に合わせた住みやすさの説明を行っている。
- 共通するところと言えば、新幹線、高速道路などの交通の要衝であり、各地に通勤可能であることが言えると思う。
- 各市町がターゲットを絞って、移住促進に取り組むことが必要。その中でも、学童保育の充実などの子育て環境の充実は重要だと思う。
- 新聞記事に、久留米市において、出生の増加、小中高校進学時の世帯の増加で人口減少に歯止めがかかっていると載っていた。やはり、移住のターゲットは福岡都市圏であると思う。アンテナショップの取組みの中にも「移住促進センター」機能があるが、首都圏は移住促進のメインターゲットではなく、コストパフォーマンスの点でも疑問を感じる。

- その記事は承知しているが、現在人口が増加している原因について、これといった分析はできていない。移住促進のメインターゲットは、福岡都市圏であると考えているが、分母が大きい首都圏での取組みも重要であると考えている。
- アンテナショップの大きな2つの目的として、圏域の農産物や特産品のPRや販路拡大と、この圏域への移住促進、観光客の誘致がある。特産品の販路拡大では、福岡圏域は近いので、首都圏の方が効果が大きいと考えている。また、国内はもとより海外からも多くの人が集まる東京に出店することで、圏域の知名度向上を図りたいと考えている。

②第1回分科会で出た意見等に対する対応（案）について

[対応案の説明]

- シティプラザの取組みで、大道芸の事業をどのように圏域へ広げていかれるのか。
 - 大道芸を街なかだけの展開ではなく、規模を大きくして一大イベントとして育てて、圏域の賑わいづくりに繋げていきたい。
 - 久留米市の取組みを各市町に広げていくだけでなく、地域がそれぞれに特色をいかして行う催し物などを活性化するアドバイスをすることは考えられないか。
 - 地域の施設間の連携の中で取組んでいきたい。
 - 子育て支援において、各市町の取組みに差がある。公共交通マップではないが、久留米市が圏域の取組みを取りまとめてもらって、子育て支援の取組みを引っ張ってもらいたい。
 - 各市町の子育て支援をホームページで検索したが、久留米市と大刀洗町が見易かった。
 - 各市町それぞれに子育て支援策を並べると、差があることを実感する。互いに磨いていくことが必要であるし、久留米市が引っ張る部分は引っ張って、圏域で足並みを揃えていけたらいい。
 - 久留米だけが充実するのではなく、圏域全体で充実させていくことが重要である。広域で行うことでメリットが出るものについて、今後も検討していきたい。
 - インターネットで4市2町の様々な情報がまとめて見られるようになればいいと思う。
 - 各自治体それぞれにされていると思うが、検討していきたい。
 - ファミリーサポート事業は、定住自立圏で取り組んでいるが、各市町の子育て支援事業に違いがあり、うまくマッチングが出来ていないところがあった。また、幼稚園は行政域を越えて行けるので、小学校において隣接する市町においても行政域を越えての通学が検討できないか。
 - 小学校の広域化は、率直に言って難しいと思う。小学校については、各市町の教育委員会が所管している。ご意見については、所管に伝える。
 - 保育所は、通常、月曜から土曜までなので、土日預かりについては「日曜預かり」に修正をお願いする。
 - うきはでは、土曜日は通常保育ではない。
 - 「土日預かり」については、原案のとおりとする。
- また、対応案については、事業実施に向けたご意見を頂いたということで、対応案の修正は無しということでよい。

(異議なし)

では、分科会に提出された原案のとおりとする

③成果指標（KPI）の項目及び目標値について

成果指標（KPI）の項目及び目標値の説明

- 人材育成分野で 125 名と 326 名では 451 名となるが 455 名で正しいのか。
- 451 名に修正する。
- 現状維持するという目標値は、確かに維持するだけでも大変なところがあるのは分かるが、これから連携中枢都市圏に取組もうとする中では消極的ではないか。事務局で再考をお願いしたい。
- 再度、検討したい。
- 公共交通の利用者の目標値は、トレンドから見るとかなり高い目標になっていることは言っておきたい。
- 現状維持になるような場合は、他に前向きな指標を設定できないのか。
交通空白地帯に住んでいる人の数などはどうか。
- そのような数値を把握するには、調査が必要。今回の成果指標の設定は、新たに調査費をかけずに把握できるようなものを設定している。
- 事務局、WGにおいて、再度検討していただき、修正が必要な項目については修正をお願いする。

④施策全体についての意見交換

- 本圏域の「暮らしやすさ」である子育て支援には、保育士、保健師を始め、様々な専門職が関わる必要がある。大学等との連携で子育て分野の人材を確保し、日本版ネウボラをこの圏域でつukれないか。
- ビジョン案では、職員の人材育成はあるが、取組み分野での人材育成はない。今後、5 年間の計画の中で各市町とともに検討していきたい。

(2) その他

〔次回、全体会議の案内〕

- これで本日の懇談会は終了する。